

主題（課題）設定の考え方

「幼児教育の成果を社会に示そう」 ～人格形成は幼児期の生活とあそびから～

「子ども」の存在は、時代や地域をこえて人類すべての宝物であり人々や社会の活力の源泉です。それは、いのちを授かり誕生した事実そのものが奇跡の結晶であることを、どのような状況のもとであっても誰もが了解しているからでしょう。しかし、昨今、日本においては「子ども」に対する大人の眼差しやかかわりが変化しつつある現実がみられはじめてはいないでしょうか。虐待やネグレストに限らず、さまざまな施策も「子ども」には焦点化されずO E C Dの調査では総合的な指標での「子どもの貧困度」は加盟国の中でも上位に位置するとの報告すらある実態です。

私たち私立幼稚園や関係する幼児教育施設で保育実践に従事する保育者は、「子ども」と日々生活をともにして成長・発達を保障し支える営みを継続しています。そこでは、それぞれの園が掲げる建学の精神や保育理念と幼稚園教育要領にもとづいて保育実践がなされ、日々保育を振り返り、出現する問題や課題に真摯に向き合い研究や研修を重ねることにより、保育が一層充実するため努力することが大切です。

今、私たち保育実践者の使命としてこれまで以上に強く意識し具体的な行動に移すべきことは、子どもの人格形成の基礎を培っている実態と「豊かさ」を、これまでの詩的共感性の文脈で語るばかりでなく、一定の立証性をともない誰にでも理解できるかたちで、保護者をはじめとした関係者はもとより広く社会に示していくこと。そして、それぞれの園内で繰り広げられている保育について、課題意識をしっかりと握り返り学び合うことで、より確かな保育改善の体制をつくりあげることでしょう。

この度、これまでの教育研究課題から構造を少し変えて、すでに示されている「保育者としての資質向上研修俯瞰図」で整理された研究研修の観点と内容との整合性を図りました。また、これまでの課題設定の理由や研究の手がかりに加え分科会テーマを例示することにより、各地区および都道府県団体等の分科会や研修会のテーマ・内容とも連動して運営することが可能になるでしょう。なお、具体的な研修の実施に際して手がかりとなる分科会テーマの例示につきましては、各地区や都道府県団体等で独自の課題をテーマとして設定する場合もあることから地区独自の課題を設定できるよう配慮しました。そして、研修俯瞰図に取り扱われていない領域や今日的な課題を、特別分野としてお示ししています。

これらのことによりまして、各団体等の園外での研修はもとより各園におきます園内研修の計画や実行におきましても推進の参考になることでしょう。また、研修等を通して保育への共通の展望をもち、専門家として互いに高め合えるような関係を意味する「同僚性」を発揮する保育者集団として育つことも願っています。

さらに、既刊の「研修ハンドブック」等を活用し一人一人の保育者が研究研修の主体者となり、計画性や将来への展望を持って日々研鑽されることを期待しております。

なお、文中に「教師」ではなく「保育者」とありますのは、認定こども園のことを考慮し、より広く保育の機能をとらえる必要性があると判断し、あえて「保育者」という呼称を使用しています。また、できるだけ文言の整理を行いましたが文脈や意味の上から、例えば「幼児」と「子ども」等の文言が混在することもありますので、主旨をご理解いただければ幸いです。

社会の要請のもと、幼児教育の無償化や学校評価が進展する中で、今般、平成22・23年度教育研究課題を示すこととなりました。各園や各地域での地道な研究研修の営みを公的な場に示す一助になりますことを切に願っています。

2009年7月